

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は新潟県三条市に生まれ、そこで高校まで過ごしました。子供の頃はアリを観察したり、カブトムシを飼育することが好きでした。高校生の頃、NHKで放送していた「地球ファミリー」を見て、動物の生態に関心を持ち、大学では野生動物の生態を研究しようと考え、帯広畜産大学に進学しました。在学中に少し路線が逸れて、昆虫学研究室に所属したのですが、生き物に対する関心が環境問題を考えるきっかけとなり、現在の仕事に繋がっていったように思います。

勤めている会社は主に上下水道施設の維持管理を行う会社です。私は今年で入社20年目になりますが、これまでどちらかと言えば浄水場よりも下水処理場の運転管理に携わってきました。新人の頃は、活性汚泥中に含まれる微生物を観察するのが楽しく、クマムシを初めて見た時は驚いたりしたものです。

下水処理場は各種設計に基づいて造られています。設計では計画流入水量や計画流入水質を基に反応タンクの容量や設置する機械の能力を決定しています。しかし、維持管理の現場では流入水量や流入水質が設計どおりということはほとんどありません。そこで設計の考えを理解した上で、運転管理で得たデータを基にして、どのように運転するか考え、反映させます。私のような水処理技術者の腕の見せどころとなります。

現在は業務を統括する立場にあり、デスクワークが中心となりましたが、汚水をきれいにして自然に返す現場の最前線にいるという自負をもって日々業務に取り組んでおります。これからも支えてくれた皆様に感謝し、研鑽していきたいと考えております。

細川 仁 (ほそかわ ひとし)

●上下水道部門(下水道)

勤務先

株式会社データベース



→次号は、大野充雅さん(農業部門)

私は岩見沢市に生まれ、大学時代は札幌、函館で過ごし、大学院進学時に再び札幌に戻ってきました。大学院時代は、一応環境関係の分野を専攻しており、もともとインフラ整備にも興味があったことから、現在の勤務先である建設コンサルタント会社の環境部門に入社しました。我ながら北海道一筋の人生ですね。

ところで、環境保全とは道路や河川等の開発事業とは基本的にトレードオフの関係にあると思います。私も入社当初は開発事業よりも環境保全を主眼に業務を遂行していた時期がありました。しかし、技術士試験(建設環境)の勉強時に会社の他部門の先輩達から「建設環境」の意義(事業円滑化のため、事業と環境保全の両立に向けた課題解決策の提案)について指導を受け、従来の発想を転換することが出来ました。また、兎角、技術屋に傾きがちな中で、6年前の総合技術監理部門の合格を機会に、「個別の管理分野のみの視点ではなく、幅広い視野から業務全体を俯瞰的に把握・分析し、複数の要求事項を総合的に判断・管理する」ことを学び、建設コンサルタントの技術者としての幅が広がったと感じています。

現在は、様々な開発事業における自然環境分野から生活環境分野まで幅広く業務に従事しています。特に魚類調査の現場が好きで、たまに現場に行くと時間も忘れてタモ網で魚探しに夢中になっています。今後は、環境への配慮について事業の計画段階から業務に携わっていきたいと思います(予防保全ともいえるべきでしょうか)。今までに培った技術や経験に満足せず、更なる自己研鑽に励み、環境に配慮した北海道のインフラ整備の一翼を微力ながら担っていきたいと思います。

高橋 直志 (たかはし なおし)

●建設/総合技術監理部門

勤務先

株式会社開発工営社



→次号は、竹野泰典さん(建設/環境/農業/総合技術監理部門)